

北海道フラワーソン2017 への誘い

内田 暁友



ゼンテイカ(エゾカンゾウ)、2011年6月17日、ウトロ

フラワーソンを知っていますか？

今年は5回目となるフラワーソン開催の年です。フラワーソンとは5年に一度、6月に全道的な規模で開催される野生植物のイベントで、前回2012年には約3,100名と過去最大の人数が参加しました。私は2002年から参加し、前回からは網走地方のアドバイザーとして協力しています。

といっても前回から5年も空いていることもあり、それってなんだっけという方や初耳の方も多と思います。今回は3箇月後に迫った道内最大の野生植物イベント、北海道フラワーソンについて紹介します。

そもそもこの変な名前はどこから来ているのでしょうか。起源はバードソン(Birdathon)という競技バードウォッチングで、バードウォッチングとマラソンを合成したものです。これは24時間以内というふうに時間を決め、時間内に何種の野鳥を観察できるか

を競うものです。

フラワーソンはこれを植物におきかえ、北海道新聞野生生物基金の設立5周年記念イベントとして1997年に道内で開催したのが最初です。と言いつつ、今のところこの言葉が道外に広がっている気配はありませんが。

フラワーソンに参加しよう！

参加者はグループをつくって6月の特定の2日間(今年は17、18日)に花を観察し、種数を競います。といっても競い合う要素はあまりなく、実際は市民参加型植物調査という雰囲気です。そして2日間で全道から集まったデータから、地理情報システム(GIS)を駆使してつくられたお楽しみ報告書が後日送られてきます。

北海道は広いので、同じ日でも道南と道東では分布している植物種も違えば開花の進み方も違います。昔むかし、北海道帝国大学の偉い先生

方が長い年月をかけて明らかにしてきた植物の分布や、またさまざまな花の開花前線が美しく地図化されていく様子は圧巻です。

純粋な競技にならないのは、これら調査としての位置付けが大きいからです。種数が多い場所は結果をみれば一目瞭然で、競技ならば誰もが次回はそこへと考えます。しかし北海道は広く、調査地が集中すると誰も調査しない場所ばかりになり地図が描けません。調査地の分布をバランス良く調整する必要があります。

花の名前をおぼえたい、植物調査に参加したい、上位を狙いたいなど楽しみ方は様々。よろず相談承りますので、ぜひお問い合わせ下さい。

発行 2017年2月23日
発行所 知床博物館協会の
099-4113北海道斜里郡斜里町本町49
斜里町立知床博物館内
TEL: 0152-23-1256 FAX: 0152-23-1257